



さくら 2011 秋

発行
社会福祉法人 東桜会
第 33 号
〒420-0962
静岡市葵区東 527 番地の 1
特別養護老人ホーム 麻機園
TEL 054(247)8739
FAX 054(247)8640



100 歳おめでとうございます



9月21日に麻機園入居者の『大石志づ』さんがめでたく100歳になりました。当日は御家族も来園され、1階2階の入居者や職員が集まり、盛大にお祝いをさせていただきました。大石志づさんは今日までの百年間、大変な人生を送られてきたことと思います。『静岡大火』『太平洋戦争』等、私たち職員は歴史の授業でしか知らないことを実際に経験して来られた志づさん、この日は改めて志づさんの力強く生きて来られた人生におおくの感動をさせていただきました。

大石志づさん、改めてお誕生日おめでとうございます。次の目標は静岡市の最高齢を目指して頑張ってください！！

麻機園 寮母 村松翔一



敬老会みなさんおめでとうございます



《 ケアハウス桜花 》

まだ厳しい残暑の中、今年もケアハウス桜花の敬老会を行いました。入居者のみなさまは、素敵な洋服にお化粧もして式典に参加されました。

第2部のアトラクションでは、『とと』様3名が、大道芸を披露してください、バルーンアートで好きな動物をリクエストすると、見事な手さばきで風船を操っていました。食事会が終わると、「ごくろうさま、ありがとう」と笑顔でお言葉をいただきました。みなさま、これからも元気で過ごしてくださいね！

ケアハウス桜花 相談員 佐藤勝洋

《 麻機園 》

9月10日、麻機園では「さくらの広場」で敬老会を開きました。入所者の皆さんやご家族、職員が100人くらい集まり、敬老のお祝いをしました。

第1部の式典では、理事長、園長の挨拶に続き、静岡市長からのお祝の言葉が届き、皆さん聞き入っていました。敬老のお祝いの贈呈では、満100歳を迎えられる大石志づさんと米寿を迎えられる広瀬さだ子さんに入所者を代表してお祝いが渡され、皆さんから盛大な拍手が沸き起こりました。

第2部の新人職員によるアトラクションは、マジックショーや大喜利、マツケンサンバを披露、練習の成果が十分に発揮され、会場からはやんやの喝采で一体となり大盛り上がりでした。

引続き第3部の昼食会では会場を模様替えし、今年は寿司屋の出前握り寿司が振る舞われました。久しぶりのお寿司に準備が整う前からつまみ食いする入所者もあり、皆さんに喜んで頂けました。

これからも、皆さんに元気で楽しく過ごして頂けるように、職員一同頑張ります！

麻機園 寮母 麻野智子

やさしさの中で笑顔が咲き揃う 社会福祉法人 東桜会

～ 夏の太陽よりも明るく ～

夏祭り実行委員長 海野隆由

7月30日(土)に東桜会夏祭りを開催しました。きっと、この日を心待ちにされていた方も多かったのではないのでしょうか。今年は生憎の雨天で麻機園の建物の中での開催となりましたが、麻機園の入所者やご家族の方々、ケアハウス桜花の入居者やご家族にも沢山参加していただきました。来園された皆様の笑顔は夏の太陽よりも明るく楽しそうで、外が雨降りである事を忘れさせるほどでした。職員もゆかたやハッピー姿で祭りを盛り上げ、今年の祭りのメインイベントの「大道芸」と「一五一会の演奏」も盛況の内に終了することができました。かき氷を食べて、たいやきを食べ、ゲームをしようと、楽しい時間を過ごし、今年の夏の良い思い出の一つになったことでしょう。



ご参加いただいた大勢の皆様、ご出演いただいた皆様、大変有難うございました。

それぞれの最期

麻機園 寮母 赤堀倫宏

4年位前から、入所者の最期を看取る事が多くなりました。去年は私の担当していた入所者や、入社当時から生活の一部を援助させてもらってきた入所者が亡くなりました。一緒に好きな歌を唄い、笑顔に和まされ、時に「ありがとう」という言葉に励まされて、私も気付けば入社して6年の月日が経っていました。100歳の誕生日にも変わらぬ笑顔を見せ、お元気だったHさんはその1年後に亡くなりました。いつも勇気と元気を頂いた入所者の人生の最期に立ち会えた事は、私にとってとても光栄な事です。

私にも祖母がいます。実家で祖母と話をすると「小さい頃は家の中を走り回ったりしていたっけね」などと、私の幼少期を話してくれます。祖母は耳が聞こえにくく、すぐ横で話していても聞こえていません。しかし、昔から大好きだった巨人のテレビ中継は楽しみにしていました。今は、動きで解る野球やサッカーを見ているのが楽しみだと言っています。

祖母は今年米寿を迎えました。年々親しかった友人や親戚が亡くなって行き、「最後まで頑張ったね」と送ってきました。そして時々「次はいつ自分が・・・」と口にします。やはり寂しいんだろうと思います。実家には、祖母と父、弟が住んでいます。自分の娘である私の母は、9年前に他界しました。いつか祖母も人生を全うして最期を迎える時が必ず訪れます。それまでは元気で、昔と変わらない笑顔で私達の事を見守っていて欲しいです。そして祖母の最期の瞬間は、家族みんなで見送ってあげたいと思っています。

入所されている方は様々な人生を歩んできています。その歴史に耳を傾けていると教えられる事が数多くあり、私自身の未熟さを思い知らされます。そんな人生の大先輩の最期に立ち会うにあたり、恥ずかしくないよう今後も学ばせて頂きたいと思っています。

今後の予定

11月5日(土)
冬物衣料販売

12月下旬
クリスマス会

来年

1月1日(日)
新春の集い

1月2日(月)
書初め

皆に支えられて

小泉富二郎

私がこの仕事についたきっかけは、高校二年生の時に参加したボランティアでした。初めて参加したボランティアは重度心身障害者施設でした。そこでは、障害を一つの個性ととらえ、一人ひとりに親身になって接していました。初めてのボランティアで、緊張と戸惑いを感じていた私ですが、職員の方、利用者の方が「こんにちは、初めまして。」と暖かい挨拶で出迎えてくれ、こんな仕事が出来たらいいなと思いました。

しかし、社会人として初めて現場に出てみると、自分が想像していた以上に仕事の大変さを感じました。業務に追われ、毎日があつと言つ間に終わってしまします。入所者の方と全然話せない日もありました。そんな中、この仕事の本当に自分に向いているのか、と悩むこともありました。しかし、そんな時に、入所者の方が「いつもありがとうね」「ご苦労様」と励ましてくれ、もう少し頑張ってみようと思つて元気づけられていました。

麻機園に入社して2年目になりました。1年目にデイサービスに異動となり、特養とは違った色々なことを学ばせていただきました。そして今年の4月に特養に戻り、未熟ながらも、入所者の皆様の生活の援助をさせていただいています。入所者の方からの優しい言葉で支えられ、時には人生の先輩として厳しいお言葉を頂き、今の私がいまです。私も、入所者の方を支えられる寮母として、笑顔を決やさず頑張っていきたいと思っています。